

第9分科会

学生が過ごしたコロナ禍の大学生活

分科会概要：

2020年4月から新型コロナウイルス感染症予防対策として、各大学はキャンパスの閉鎖やオンライン授業の実施など、様々な対応をしてきた。その中で、特に2020年度入学者（現3年次生）は入学直後からコロナ禍の大学生活を過ごすことになり、社会状況や大学の対応に振り回されながら大学生活を過ごしてきたと言える。「可哀想」と言われることも多い彼らだが、実際はどのような大学生活を経験してきたのか。

本分科会では、①全国の大学生を対象とした量的調査の結果（山田氏）、②2020年度入学生を対象としたインタビュー調査の結果（佐藤氏）、③コロナ禍の学生生活の実践報告（江崎氏）の3つの報告をもとに、コロナ禍の大学生活を学生視点から紐解きたい。そして、後半のワークショップ（会場参加のみ）では、「通常の大学生活」とは何かについてや、学生を理解するためにはどういった調査や情報収集と構成員や学生への共有方法があるといいのかを皆さんで検討したい。

<プログラム>

14:00 趣旨説明

京都文教大学 総合社会学部 助教 中西 勝彦 氏

14:10 講演 1. 「コロナ禍に実施された大規模学生調査の結果」

関西大学 教育推進部 教授 山田 剛史 氏

14:40 講演 2. 「2020年度入学生を対象としたインタビュー調査の結果」

京都大学 教育学研究科 准教授 佐藤 万知 氏

15:10 講演 3. 「コロナ禍における学生生活の実践報告」

京都文教大学・短期大学 社会連携部 フィールドリサーチオフィス 職員
江崎 洋子 氏

京都文教大学 地域連携学生プロジェクト 商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas
学生3名

15:40 休憩

15:50 パネルディスカッション

16:30 オンライン開催 (Zoom) 終了

16:30 意見交換ワークショップ（会場参加の方のみで行います）

テーマ「通常の大学生活とは何か」「学生理解のための方法とは」

17:30 終了